

# ちっちな いばりやさん

ある <sup>ところ</sup> 所に、<sup>ちい</sup> 小さな <sup>おんな</sup> 女の <sup>こ</sup> 子が いました。

<sup>おんな</sup> 女の <sup>こ</sup> 子の <sup>な</sup> 名前は、「<sup>まへ</sup> リトル・ボッシー

(「ちっちな いばりやさん」という <sup>い</sup> 意味)」。

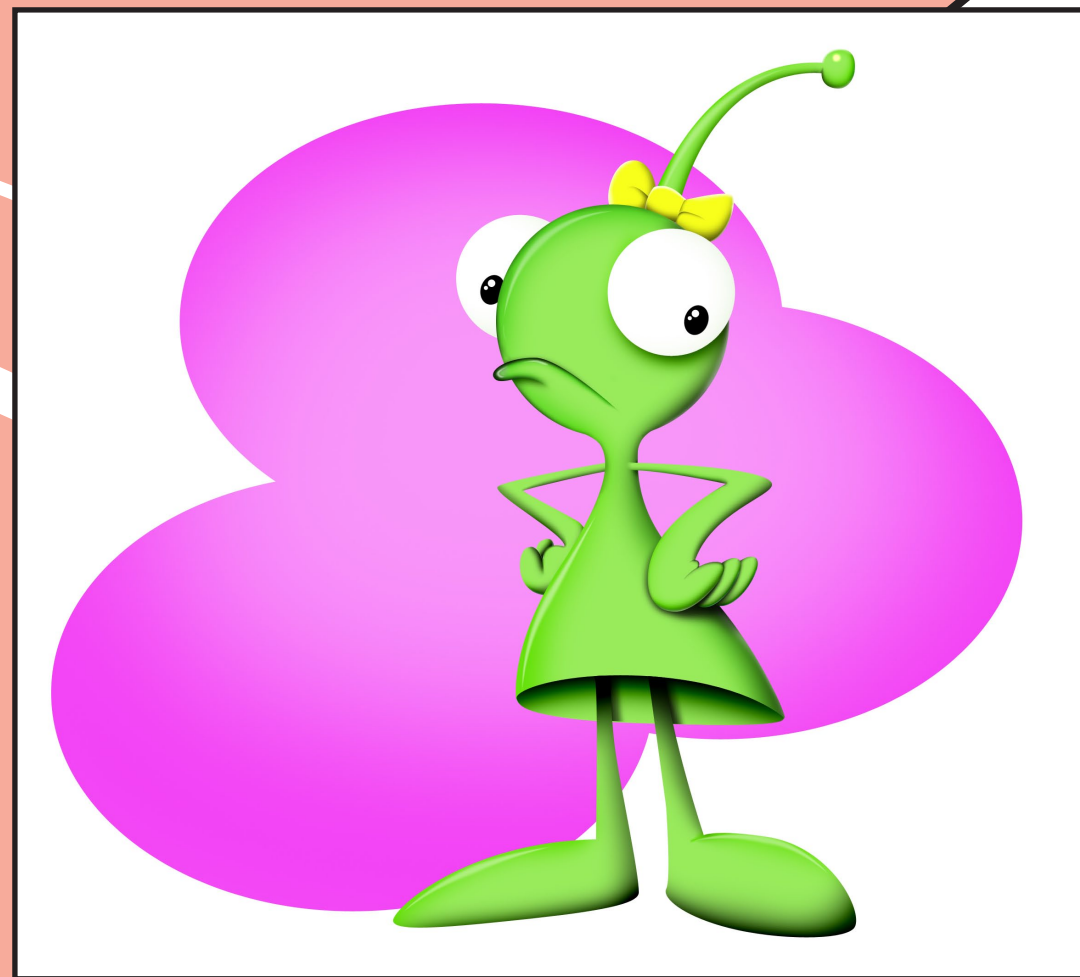
<sup>がっこう</sup> 学校で <sup>べんきょう</sup> 勉強している <sup>とき</sup> 時も、<sup>あそ</sup> 遊んでいる <sup>とき</sup> 時も、

いつも <sup>ものごと</sup> 物事を <sup>じ</sup> 自分の <sup>ぶん</sup> やりたいように したがりました。

<sup>なに</sup> 何事でも、<sup>じ</sup> 自分に <sup>ぶん</sup> してもらいたい ことは、

<sup>ひと</sup> ほかの 人にも そのように しなさい。」

<sup>しんかいやくせいしよ</sup> (新改訳聖書、<sup>ふくいんしよ</sup> マタイの 福音書 7:12)



キーキー わめいたり、足を<sup>あし</sup>バンバン ふみ鳴<sup>な</sup>らしたり、  
おおこえ 大声で どなったり、くち<sup>くち</sup>うるさく い<sup>い</sup>言<sup>い</sup>ったりして、  
ボッシーは<sup>とも</sup>友だちに、「こ<sup>こ</sup>ちに<sup>き</sup>来<sup>き</sup>てよ」とか、  
「あ<sup>あ</sup>ちに<sup>い</sup>行<sup>い</sup>って」などと、いば<sup>い</sup>ってばかり。  
<sup>とも</sup>友だちが うんざりしても、<sup>き</sup>氣に とめません。

「リトル・ボッシー、<sup>とも</sup>お友だちに やさしくしてあげなさい。  
そうでないと、あそ<sup>あそ</sup>び<sup>じ</sup>時<sup>かん</sup>間<sup>たの</sup>が 楽<sup>たの</sup>しくなくなるわよ！」  
お母<sup>かあ</sup>さんは、いつも そう<sup>い</sup>言<sup>い</sup>って ボッシーを たしなめるのですが、  
ボッシーは ち<sup>ち</sup>っとも <sup>き</sup>聞<sup>き</sup>きません。





ある日のことです。ボッシーの友だちが言いました。  
「君と遊んでいても、ちっとも楽しくない。  
頭に くる ことばかりなんだもの。  
いつも いつも、君の やりたいようには できないんだ。」

ボッシーは うなり声を 上げて さげびました。  
「そんなの、不公平だわ!」  
そして、はあはあ いいながら、  
荒々しく 階段を かけおりていきました。

「どうしたの、ボッシー。」

いったい なに  
一体 何が あったと いうの？」

さけび こえ 声を あげている ボッシーを み 見て、  
かあ お母さんは いき ため息を つきました。

とも 「友だちが、き 聞いてくれないの。」

とっても い 意地悪 じわる なのよ！」

ボッシーは かお 顔を ま 真っ赤に か して い 言いました。

かみの け 毛も、ふりみだしています。





「まあまあ、<sup>お</sup>落<sup>っ</sup>ち着いて、ボッシー。

よく きくのよ。いいこと？

あなたの <sup>とも</sup>お友だちだって、

<sup>じぶん</sup>自分たちの やりたいようにして <sup>あそ</sup>遊んでみたいのよ。

<sup>じぶん</sup>自分が <sup>しんせつ</sup>親切に してほしいように、

あなたも <sup>とも</sup>お友だちに <sup>しんせつ</sup>親切に してあげなさい。

いつも どなったり さけんだり していては、

<sup>とも</sup>お友だちだって、にげていってしまうわ。

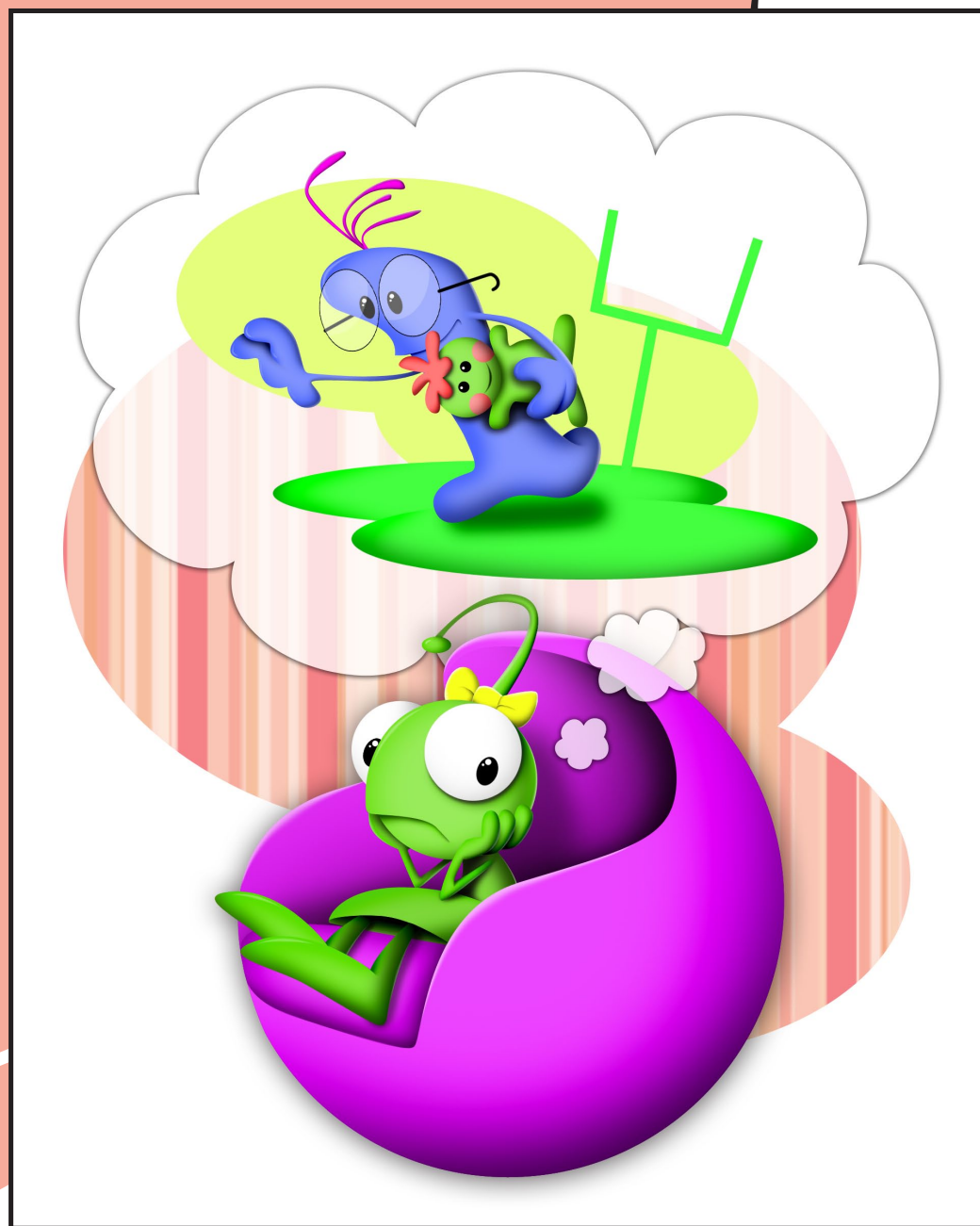
<sup>しんせつ</sup>親切で やさしくて、<sup>はなし</sup>話を <sup>き</sup>聞いてくれる

<sup>とも</sup>お友だちを <sup>み</sup>見つけるためにね。



リトル・ボッシーは ちょっと <sup>かんが</sup> 考えていましたが、  
き 気まり悪<sup>わる</sup>くなって、身<sup>み</sup>を よじらせました。  
じぶん 自分が えらそうに している せいで  
とも 友だちが みんな にげていって しまったのなら、  
なん 何て 悲<sup>かな</sup>しいんだろう。

「やさしくするように するわ。  
たとえ、友だちが <sup>とも</sup> 人形<sup>にんぎょう</sup> を かかえて  
ラグビーを したがってもね。」



「ふくれっ<sup>つら</sup>面を したくなくても、  
どならないで、ちゃんと <sup>はなし</sup>話を <sup>き</sup>聞くように するわ。」  
リトル・ボッシーは、もう <sup>き ぶん</sup>すでに いい 気分です。  
<sup>かお</sup>顔も、すてきな えがおに なりました。

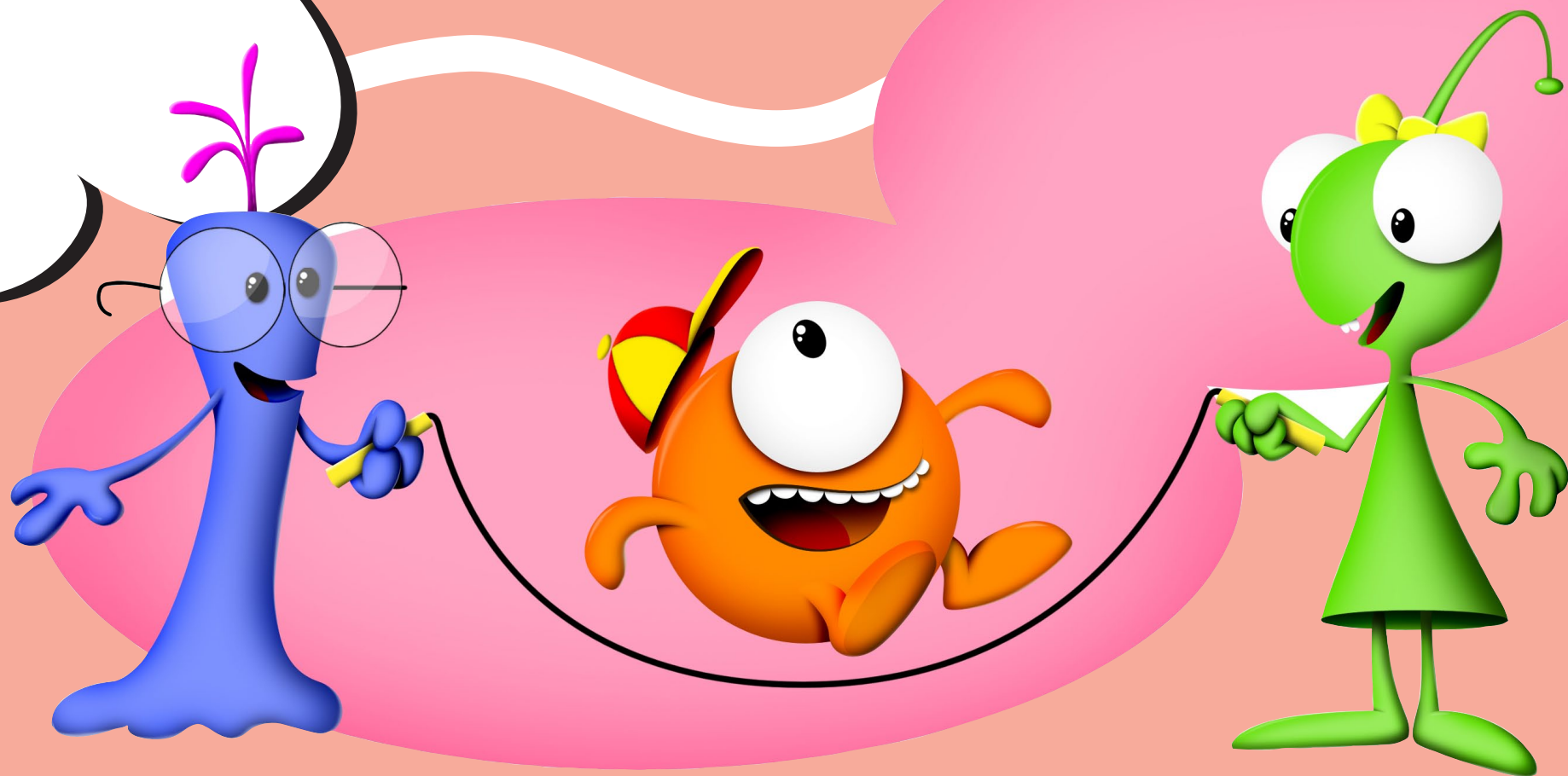
ボッシーは、友だちに <sup>とも</sup>あやまりに <sup>い</sup>行きました。

「みんな、ホントに ごめんね！

<sup>きょう</sup>今日で、いばりやさんとは バイバイよ！

これからは、いつも やさしく なれるように がんばるわ。」





すぐに、ボッシーは みんなと <sup>なかなお</sup>仲直りを しました。  
いばりやさんは やめて、<sup>おも</sup>思いやりを <sup>も</sup>持つと、  
みんなは <sup>しあわ</sup>とっても <sup>きぶん</sup>幸せな 気分になりました。



あなたは、物事が 自分の 思い通りに  
ならないと、キーキー おこったり、  
オットセイのように バタバタしたり、  
さけんだりしますか？  
では、みんなに 高貴な 王様あつかいを  
してもらえるような、ちょっとした  
コツを お教えしましょう。  
ほかの 人が したい 遊びを して、  
遊んでみてごらん下さい、ということです。

